

2025年度
新入生のみなさんへ



みなさんの成長をサポートする 本学の取り組みについて

**各学科別
オリエンテーション内で
実施する履修登録時に
持ってきてください。**

3～4ページの表もよく確認して
必ずチェックをした状態で
持ってきてください。

金城学院大学では、
みなさんの学修成果と教育の質を
保証する取り組みを行っています。
本リーフレットは、こうした取り組みを紹介するものです。

このリーフレットについての問い合わせ先
金城学院大学 大学運営推進課
mail d-suisin@kinjo-u.ac.jp

強く、優しく。
 金城学院大学

大学が定めるディプロマ・ポリシー（DP／学位授与の方針）に基づいた評価項目に沿って、自己評価を行うものです。学期ごとに統一された基準の下で自己評価した結果を経年的に把握することで、自己能力を客観的に見つけ直すことができます。こうした内容は、全学・学科両方のレベルで把握することができます。

GPAとは成績平均点数のことで、個別の授業の成績評価における1単位あたりの平均をいいます。GPAの数値の推移を通して、自分自身の学修度を経年的に把握することが可能です。こうした内容は、全学・学科両方のレベルで把握することができます。

各学科では、学科自身のディプロマ・ポリシーを基礎とした教育課程の編成・実施の方針を定めています。これをカリキュラム・ポリシーと言います。すでに紹介した「**④学生自己評価各期ごとのDP対応ルーブリック**」や「**⑤GPA**」は、その結果を同一カリキュラム受講者（学科所属学生）全体のなかで評価することにより、学科レベルでの教育内容の修得度を測定することができます。またこのほか、学科レベルで実施されるものとしては、以下の指標があります。

各学科においては、学位授与に必要な単位数が定められています。必要とされる単位が適切に修得できているかを確認することを通して、学修実態や卒業の可否を把握することができます。

学科によっては、そのタイプロマ・ポリシーに基づいて独自の指標を設けている場合があります。これらは、進級に関わるもの（「進級判定」）や「国家試験合格」「資格取得」といった卒業要件に関わるものもあります。詳細はご自身の学科の指導を仰いでください。

授業は大学における学修の基本です。授業レベルでは以下のような指標が設けられています。

本学専任教員の担当科目を中心に、授業に対する学生の評価を通してその満足度を調査するものです。
 各教員はこの結果を分析し、授業内容の改善と向上に努めています。
 またこれらの調査や分析は『VOX POP』にまとめられ、webで公開されています。

おのこの授業における学修成果が、成績となって示されます。この成績をもとに、GPAなどが算出されることになります。

各学科のディプロマ・ポリシーに基づき必要とされる能力を評価するものです。4年間または6年間の学修を通して、自分がどのような位置に到達したかを把握することができます。

これらの指標を通して得られたデータについては、個人情報に留意しつつ、
本学の教育の質と内容を向上させ、みなさんの学修活動を支援するために活用していきます。
みなさんの学生生活がより充実したものになることを願っています。



金城学院大学では、みなさんの力をより伸ばす取り組みを行っています。
みなさんの入学から卒業までの学修到達度の測定・評価とカリキュラム・授業の改善を通して、
教育の質と内容を保証・改善する仕組みが設けられています。
(これをアセスメント・ポリシーと呼んでいます。)

「入学時・入学直後」「在学期間中」「卒業時」「卒業後」のそれぞれのタイミングで、
下表にある「アンケート」や「試験」が実施されます。

みなさんは、その結果を通してその時点の学修状況や成績、成長度合いについて確認をすることができます。

みなさんが直接実施するものについては、**赤色・オレンジ色**で示しています。

これらのうち、みなさんの身近なものについてご紹介します。

全学で実施されるものとしては、以下のものがあります。

みなさんがどのように大学生生活を過ごしているのかを把握するものです。基本的に入学時から卒業後まで実施します。アンケート結果は、学修環境やカリキュラムの改善に活用します。

英語能力を測定するもので、入学時から2年次までに実施します。これによって、その学修成果の伸びがわかります。またこの結果は、学内における位置にとどまらず、TOEICやTOEFLのスコアおよび英検の各級の目安にもなりますので、自分の英語能力を客観的に把握することができます。

大学のみならず、実社会で求められる基礎的な能力を測定します。入学直後と在学中の2回実施され、自分の得意・不得意が客観的に把握できます。また、広く実施される試験であるため、自分の修得度を、学科や大学にとどまらず、全国レベルで確認することもできます。

学生自己評価
DP対応ルーブリック
について

金城学院大学では、教育理念に基づき、学生がどのような力を身につけるのかという方針として、「ディプロマ・ポリシー」を定めています。ディプロマ・ポリシー（DP）は、皆さんの卒業時における学修成果の目標となるものです。

ルーブリックは、みなさんが最終的にディプロマ・ポリシーを達成できるように、その指標となる項目（縦軸の項目）と、達成に至るまでの道筋を各項目ごとに段階的に示したもの（横軸の基準）です。

本学では、卒業時における学修成果の目標であるディプロマ・ポリシーを段階的に達成していくため、4つの段階からなるルーブリックを策定しています。みなさんは、このルーブリックを用いた自己評価を通して、自分がディプロマ・ポリシーをどの程度達成できるかについて、各期ごとに振り返ることができるようになっています。

ルーブリックを使って
今の自分の到達度を評価して
みましょう！

ルーブリック評価はK-PORTから履修登録をする際に行います。履修登録はK-PORTの「MENU」から「履修・シラバス・成績」→「履修登録・確認」と進みますが、初回アクセス時の履修登録画面が出てくる前にルーブリック評価の画面が出てきます。ルーブリック評価後、履修登録に進めるようになります。

[K-PORT画面]



[ルーブリック評価画面]

全ての項目にチェックをして最下部のボタンをおすと履修登録に進めます。

各学科別オリエンテーション内で実施する履修登録時には、必ず基準の項目にチェックした状態で持参してください。

※以降の評価も初回同様の操作で毎回の履修登録時（年2回）に行っていただきます。

学生自己評価 DP対応ルーブリック

みなさんに実施してもらうこの自己評価は、自分のDP達成度を振り返るためのものですので、成績評価に反映されることは一切ありません。

ディプロマ・ポリシー	評価の観点		基準			
	項目	項目の解説	4	3	2	1
1. 知識・理解						
A. 知識		主に共通教育科目と専門教育科目の履修状況と単位修得状況から判断してください。基準1の教科とは、高等学校などで学んだ教科（英語、数学など）を指します。	☐ 十分な教養と深い専門的知識を組み合わせ、自らが修得した専門分野の内容を説明することができる。また、自らが修得した専門分野の内容を実際の場面（日常生活や実習・研修など）で活用できる。	☐ 自分の選択した専門分野の知識の修得を積み重ねている。また、大学で修得すべき幅広い分野の教養を身につけている。	☐ 自分の選択した専門分野についての基礎的な知識を修得している。また、大学で修得すべき幅広い分野の教養についてもいくつかの共通教育科目を修得している。	☐ 大学での学びのために必要な教科の基礎学力を身につけている。また、自分の選択する専門分野に関連の深い教科について、十分な学力を身につけている。
	B. 理解	多様な文化は、国際的な視点から見た文化や自分とは立場の異なる人々の文化を指します。	☐ 自分たちの文化とほかの複数の文化に関する深い理解にもとづき、それぞれの文化の違いを客観的に説明できる。また、ほかの文化を尊重することができる。	☐ 自分たちの文化とほかの複数の文化について、客観的に理解している。また、自分たちの文化とほかの複数の文化の違いを客観的に説明することができる。	☐ 自分たちの文化とそのほかの一つの文化について、客観的に理解している。加えて、自分たちの文化とそのほかの一つの文化との違いについても理解している。	☐ 自分たちの文化のほかにも多様な文化に興味を持っている。
2. 汎用的技能						
C. 情報の収集と分析		具体的には図書館やインターネットなどを利用して情報検索・情報収集を行い、それらが適切な情報かを判断し、分析する力を指します。	☐ 専門分野に適した情報収集・分析および検証を、卒業論文や卒業制作において実施している。さらに、適切な表現技法を用いて情報収集・分析および検証結果について示すことができる。	☐ 専門分野に適した情報収集・分析の技能を修得している。また、収集した情報や分析結果を活用しながら簡単な論考を作成することができる。	☐ 自分の専門分野に適したやり方で、情報を収集し分析するための初歩的な技能を修得している。	☐ 自分が適切と思う方法で情報を収集、選択することができる。
	D. 論理的思考	課題解決に向けて、客観的な根拠やデータを選択・分析して、論理的に結論を導くことができる力を指しています。	☐ 複数の客観的な根拠やデータを適切に検証、選択することができる。そこから説得力のある論理展開により自分の意見を組み立て、主張することができる。	☐ 信頼できる情報源から得た複数の客観的な根拠やデータを選択し、それらを用いて矛盾なく自分の意見を主張することができる。	☐ 自分以外の信頼できる情報源から得た一つ以上の客観的な根拠やデータにもとづきながら、自分の意見を主張できる。	☐ 自分が適切と思う理由や根拠を示しながら、自分の意見を主張できる。
E. 問題の発見と解決		主に卒業論文やゼミレポートなどを作成する上で、研究における問題の発見と解決方法が身についているかを評価しています。仮説とは、データ収集・実験・分析などの方法を考えることも含みます。	☐ 問題の背景や状況を客観的、分析的に把握し、原因を探究することができる。加えて、具体的な解決策の提案や解決のための実践を行うことができる。	☐ 問題の背景や状況を客観的、分析的に把握し、仮説を立て、解決策を見出すことができる。	☐ 問題の背景や状況に関する情報を客観的な手続きを用いて収集、分析することができる。問題を具体的に把握することができる。	☐ 自分をとりまくさまざまな事象を観察し、善し悪しについて自分なりに判断し、問題点を指摘することができる。
	F. 言語表現（外国語）	英語コミュニケーション・外国語教育科目・語学関連の専門教育科目の履修を通じて、修得したことを元に判断してください。	☐ 読解および作文の基本である語彙・構文を理解しており、ほぼ正確に読み、書くことができる。また、日常の場面で使用されている自然な外国語表現について、ほぼ正確に聞き取り、話すことができる。さらに、簡単な内容であれば外国語によるプレゼンテーションもできる。	☐ 読解および作文においていくつかの間違いはあるが、基本的な語彙・構文を一定程度理解している。日常の場面で使用されている自然な外国語表現をある程度理解し、話すことができる。	☐ いくつかの文法的な間違いや語彙の間違いはあるが、簡単に実践的な外国語での会話と、初歩的な読解および作文の技術を習得している。	☐ 日常的なことからについての外国語の文章やよく使用される外国語の表現が理解できる。
G. 言語表現（日本語）		主にレポート作成する能力や卒業年次における卒業論文を執筆する力を指しています。	☐ 文章はその目的に適切な文体で書かれており、構成も明確である。多様な語彙や表現を適切に使いこなしている。読み手にとってわかりやすく、明確で説得力のある主張がなされている。	☐ 文章はほぼ問題のない文体で書かれており、前後の文のつながりなどの構成上の問題もない。使われる語彙や表現はやや単調で、時に文体上不適切なものも含むが、主張は正確に定まっている。	☐ 文章は単文レベルではほぼ問題のない文で構成されている。前後の文とのつながりが不明確な文や接続語の欠如など、構成上の問題はやや残るが、主張は概ね明確である。	☐ レポートのような全体で一つの主張を述べる文章には慣れていない。しかし、最低限の文章作成のルールは知っている。
	H. コミュニケーション	よく知った相手でなくとも円滑にコミュニケーションできることを到達目標としています。	☐ 相手の立場や価値観、考え方が不明であっても、幅広い話題、状況において、相互の立場や価値観、考え方を確認しつつ、相互理解を深めるコミュニケーションが可能である。	☐ 相手の立場や価値観、考え方がある程度わかっていれば、幅広い話題、状況において、自分とは異なる立場や価値観、考え方を持つ人ともコミュニケーションが可能である。	☐ 相手の立場や価値観、考え方がある程度わかっており、なおかつ限定された話題、状況においては、自分とは異なる立場や価値観、考え方を持つ人ともコミュニケーションが可能である。	☐ 自分とは異なる立場や価値観、考え方を持つ人がいることを知っている。立場や価値観、考え方の共通性が高い相手とであれば、十分なコミュニケーションが可能である。
3. 態度・志向性						
I. 自律		困難な課題とは、試験や卒業論文・就職活動・アルバイトやサークルにおける困難な状況も含みます。ここでは困難な課題について、自分をコントロールしながら目的を達成できることを到達目標としています。	☐ 自ら設定した目的に向かって、困難な課題でもストレスや感情をうまくコントロールしながら、自らの経験や知識から計画を立てて課題をやり遂げる事ができる。さらに結果を評価し、次の行動に活かすことができる。	☐ 自ら設定した目的に向かって、試行錯誤をしながら取り組み、その結果を振り返ることができる。	☐ 課題を達成できなくても、示された目的に向かって、自らのアイデアを交えつつ最後まで粘り強く取り組むことができる。	☐ 示された目的に向かって、周囲のアドバイスを受けながら行動することができる。
	J. チームワーク	協調性を持ちつつ、チームの中で自分の力を発揮できることを到達目標としています。	☐ チームで作業を行う際に、自分も含めた構成メンバーの能力や適性に応じた役割を考慮した上で、他者と協働して目標の実現のために共に行動できる。	☐ チームで作業を行う際に、自分の役割は適切に果たしつつ、他のメンバーが果たす役割についても理解し、必要に応じて自分の意見を述べるることができる。	☐ チームで作業を行う際に、与えられた役割を他のメンバーと協調しつつ責任をもって成し遂げることができる。	☐ チームで作業を行う際に、自分も他のメンバーと同等の役割や責任があることを理解している。
K. 隣人愛		キリスト教学(1)(2)などの履修を通じて修得した内容だけでなく、日常の礼拝やキリスト教に関する行事等から学んだことをもとに判断してください。	☐ 大学で学んだキリスト教の精神から、神の愛を基礎として、どのように生きるのかを深く考えることができる。	☐ キリスト教の授業だけでなく礼拝やその他の活動を通して、苦しみや悲しみを抱えた人々に自分ができることは何かを自主的に考えることができる。	☐ この世界には助けを必要としている人々が大勢いることを知っている。また、そのような人々に寄り添う生き方があることを知っている（参考：新約聖書ルカによる福音書10:25以下）。	☐ 家族や友人などの身近な隣人はもとより、誰に対しても愛を持って接することの大切さを理解している。
4. 統合的な学修経験と創造的思考力						
L. 創造的思考		修得した専門分野の知識や技能および教養を組み合わせ、新しい方法やアイデアを創造できるかを判断してください。	☐ 専門分野の知識や技能および教養を組み合わせ、新しい状況に適応する今までにない方法やアイデアを創造できる。	☐ 状況に応じて、専門分野の知識や技能および教養を組み合わせ、適切に活用することができる。	☐ 状況に応じて、必要とされる基礎的な知識や技能を用いることができる。	☐ 基礎学力を用いて、見本を参考にしながら課題を達成した経験がある。

基準について 「1」は、大学入学時に高校の学習で身につけておいて欲しいレベルを表しています。「4」は、大学卒業時までの学修の成果として身につけて欲しいレベルを表します。「2」「3」は、「1」から「4」に到達するまでの中間段階で、在学中のどこかで達成して欲しいレベルです。

☒ 基準の項目1～4の間で、自分が当てはまる内容にチェックを入れてください